

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

URL <http://www.library.tohoku.ac.jp/>

—木這子（きぼこ）とは東北地方の方言で、こけしのこと。小芥子這子（こけしぼうこ）—

目 次

- 統合型学術情報提供システムによる新たな情報サービス……………1
- 貴重資料の電子化について……………6
- マテオ・リッチ「坤輿萬國全圖」のデジタル復元実験……………17
- 狩野文庫画像データベース古地図編の公開…18
- 米国大学図書館行政事情：平成14年度海外調査報告…19
- 平成14年度目録システム地域講習会を開催…27

- 平成14年度東北地区大学図書館協議会合同研修会を開催……………28
- 東北大学学術情報発信セミナーを開催……………29
- お知らせ「平成14年度企画展」……………30
- 会 議……………31
- 第57回東北地区大学図書館協議会総会……………32
- 人事異動……………32
- 編集後記……………32



高精細画像クライアントによる「坤輿萬國全圖」表示

統合型学術情報提供システムによる新たな情報サービス

情報サービス課参考調査掛 菅 原 透

情報の探索に決定的なただひとつのツールというものは現在存在せず、様々なツールを使い分けていかなければなりません。しかしそれは森の中をさまよう様に似て、思いつきで行動していたのでは迷子になる可能性が高くなります。森の奥に広く散在する情報と、望む地にたどり着くための素早く正確な道標を得るには、その森に詳しい案内人に巡り会う必要があります。

実際の所、近年特徴的な学術研究の学際化と、情報探索手段の複雑化・多岐化に対し、図書館では、学術情報の提供方法について試行錯誤し、情報探索者の利便性向上を常に追求している現状です。

このような状況のなか、平成13年末、本学情報シナジーセンターで管理している学内LANの、ギガビット・ネットワーク (TAINS/G)への更新と同時に、統合型学術情報提供システムを図書館に導入しました。

各機能ごとに順次稼働しているこのシステムについてその概要と、今後の情報サービスの展開予定について紹介します。

1. システム導入の目的

統合型学術情報提供システムの、導入当初の目的は次の通りです。

- (1) 多様なメディア・形態に対応できる最先端のシステムを導入し、電子図書館的機能を拡充する。
- (2) 貴重文献・学術論文などの保護と有効利用を促進する。
- (3) 従来個別に提供されていた情報を、学内ネットワーク・インターネット等を介して統

合的に提供する。

- (4) 必要な情報を迅速かつ効果的に活用できる利用環境を構築する。

そして、教育や研究や学習の基盤を整備し、確立するのが当初の目的でした。

このシステムの具体的な機能一覧は以下項目のとおりです。次に、それぞれの機能について概略を説明します。

1. VOD サーバ／クライアント
2. 全文検索サーバ
3. 高精細画像サーバ／クライアント
4. CD/DVD-ROM サーバ／クライアント
5. 文献画像伝送システム
6. その他

1.1 VOD (Video on Demand) サーバ／クライアント

映像や音声などのマルチメディアな学術情報を学内外へ配信するシステムとして、松下電器の Video Shower と、Real Networks 社の Real8 サーバシステムを導入しました。また、動画登録システムにより動画像を作成・登録・管理することも可能となっており、ビデオテープ等をデジタル形式に変換する機能として、Optivision 社の MPEG エンコーダと、Real Networks 社の Real エンコーダを導入しました。MPEG 形式と REAL 形式の両形式に対応することにより、MPEG コンテンツにおいては高画質動画を提供することができ、また、REAL コンテンツにおいては機種やネットワーク環境にとらわれずに動画像等を提供することが可能となっています。

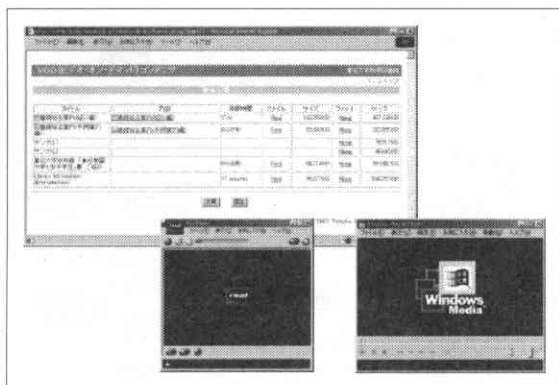


図1：VOD クライアント

1.2 全文検索サーバ

構造化テキスト（SGML）検索ソフトウェアと、Z39.50 横断検索ソフトウェアの2種類を、インターネットを介して自由にアクセスできるよう導入しました。両ソフトの全文検索エンジンには OPENTEXT 社の OpenText を据え、Infocom 社の協力によりパッケージソフトを改変して、本学の内容に沿った検索システムを提供できるようになっています。このシステムにより、本学所蔵の貴重資料である漱石文庫和書・洋書目録や、狩野文庫和書目録などの検索、それから、Z39.50 プロトコルでネットワークに公開されている世界中のサーバの統合検索が可能となっています。

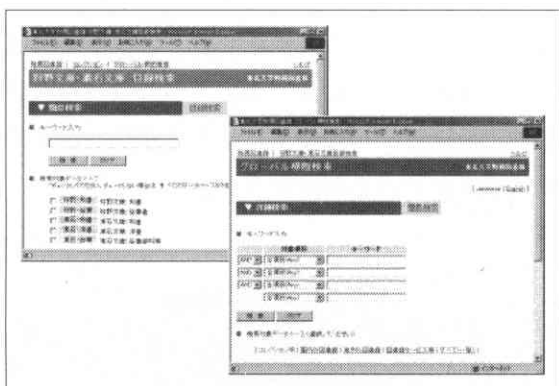


図2：全文検索クライアント

1.3 高精細画像サーバ／クライアント

電子化された貴重資料などを細部まで高精細に表示するシステムとして、PFU 社の GigaV-

iew を導入しました。インターネットを介して大容量の画像データを高速に表示することができ、拡大・縮小・移動などの操作が可能となっています。東北大学では様々な資料の電子化を進めており（本号「貴重資料の電子化について」を参照）、「坤輿萬國全圖」等の提供にこの機能を有効活用できます。（本号扉図を参照。また、本号「マテオ・リッチ『坤輿萬國全圖』のデジタル復元実験」を参照）

1.4 CD/DVD-ROM サーバ／クライアント

CD-ROM や DVD-ROM のデータを、一元的に利用者へ提供することができるシステムです。サイトライセンスを得ているコンテンツを、ネットワークを通してサービスすることが可能となっています。

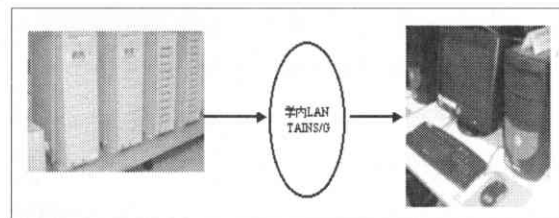


図3：CD/DVD-ROM サーバ／クライアント

1.5 文献画像伝送システム

ネットワークを介して文献を画像の形で送受信することができるシステムとして、ミノルタ社の EpicWin7000 と EpicWin3000 の2機種を、学内各キャンパスの分館図書室に導入しました。

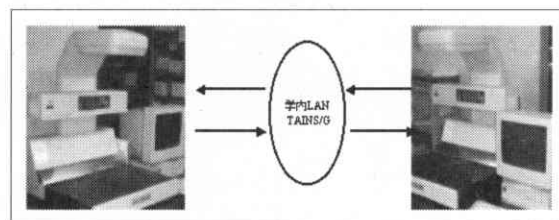


図4：文献画像伝送システム

1.6 その他

館内での学術情報利用環境整備として、インターネットクライアントや、プロキシサーバ、

ここまで説明した各機能について、導入を進めていく中で現在までにいくつか課題が浮かび上がってきました。ひとつは、提供する機能が多様化したため、既存機能も含めた統合的なサービス案内の提示が望まれていること。そして、利用者に有益なコンテンツをより多く整備していくこと、などです。

これから課題をのりこえるため、次のような改善策を考えました。1つ目は統一的な情報発信の窓口を設置すること。2つ目は多様なメディアをわかりやすく提示すること。3つ目はコンテンツの整備とリンクによる結合を重点的に進めることなどです。これらを踏まえたうえで、今、新たな情報サービスとしての「学術情報ポータルサイト」の公開準備をしています。

ポータルサイトの必要性については文部科学省の審議会報告¹⁾でも述べられていますし、また、先行して公開している国内図書館²⁾もいくつか見受けられます。本図書館では研究支援の統合的なポータルサイトとして、そのコンセプトを次のように検討しています。1つ目は、これまでの図書館ホームページとは別に構築することとし、ホームページが自館の情報を広く平均に公開しているのに対し、ポータルでは研究者の要求を反映し、個性化が図られるようにすること。2つ目は、東北大学の研究者に対し、各種学術情報コンテンツへのアクセスを保証すること。3つ目は、各コンテンツをリンクするとともに、全学から生産し発信されている様々な学術情報を統合的に提供すること、などです。

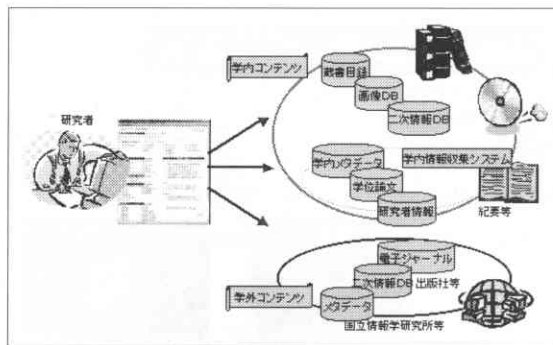


図5：ポータルサイトの概念図



図6：東北大学学術情報ポータルサイト案

情報ポータルとして機能しようとする図書館の新たな役割は、従来の図書・雑誌資料の収集の他に、デジタル資料や、学内生産物の積極的な収集と提供が必要となります。

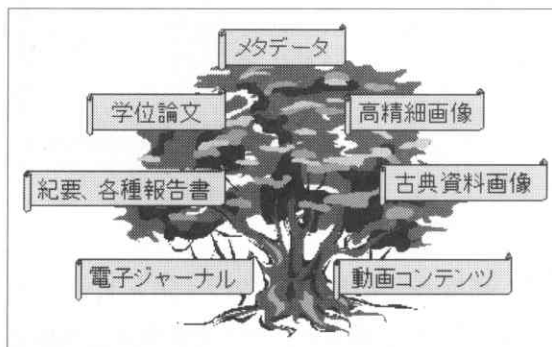


図7：学内コンテンツ整備計画

ここで、本学で計画しているコンテンツ整備の内、メタデータ収集計画についてその概略を説明します。

メタデータとは、情報に関する情報目録のことです。ここではネットワーク上の情報資源に関する目録という意味で話を進めます。

国立情報学研究所（NII）では、平成14年6月からメタデータ・データベースの全国的な試行運用を開始しており、10月からは本格運用、平成15年1月からはエンドユーザーへの提供を開始する予定です。³⁾ 東北大学でもこの試行運用に参加しており、現在まで既に500件以上のメタデータを作成済みです。

メタデータ収集の実際については、以下の手順をとります。

- (1) 情報資源の選定方法を定め、学内で発信している様々な学術情報のうち、教育・研究上有用な情報を探索する。
- (2) NII メタデータ・データベース構築システムに、全学の図書系職員が共同分担してメタデータを作成登録する。
- (3) NII メタデータをローカルにダウンロードし、東北大学データベースを構築する。
- (4) ポータルサイトによりデータベースを公開する。

初期構築時は図書館員が学内の情報資源を探索する予定ですが、将来的には研究者自身からの積極的なコミットメントが得られるような、全学的な合意の形成を目指しております。

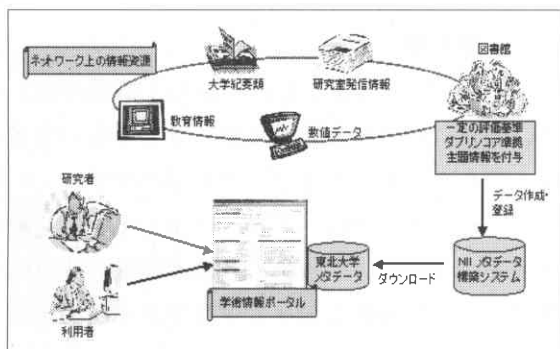


図8：メタデータ収集計画概念図

このように、組織化されておらず見逃しやすいネットワーク情報を、メタデータ目録として収集し、データベースとして公開することによって、本学発信の情報を共有資源として活用されることが期待でき、また、本学の研究活動を学内外へ広く知らせることが可能となります。

5. 新たな情報サービスに向けて

本稿で紹介したポータルサイトは、新たな情報サービスのひとつの解答にすぎません。研究者の情報アクセシビリティを向上していくためには、情報リテラシーをはじめとした他のサービスとポータルとの共同・連携も図り、より統合化した学術情報の提供サービスをおこなって行く必要があります。

本学の学術情報ポータルは平成14年10月に公開する予定ですが、この企画が初期構築のみで終わらないよう、関係者と協力し、改善を進めていく所存です。

広く、深い、迷路のような情報の森を、案内人の道標によってくぐり抜け、見晴らしの良い丘の上から森を俯瞰するとき、たどるべき道の展望が見つかるはずです。この、視界が開けたときの気持ちよさを探索者に実感していただけるよう、これからもその道先案内人を図書館が務めていきたいと考えています。

本稿は、2002年7月18日に本学で行われた「東北地区大学図書館協議会合同研修会」での発表内容に加筆・修正を加えたものです。

(すがわら・とおる)

注

- 1) 文部科学省 科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会 答申「学術情報の流通基盤の充実について」http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu2/toushin/020401.htm
- 2) 大阪大学サイバーメディアセンター ポータルシステム <http://www.cmc.osaka-u.ac.jp/j/service/portal.html>
- 3) NII メタデータ・データベース共同構築事業 <http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/metadata/>

貴重資料の電子化について

— 平成14年度 公立大学協会図書館協議会研修会 —

情報シナジーセンター 学術情報支援掛長 日 出 弘

本稿は、2002年8月2日に岩手県立大学で行われた研修会（第3講義）での講演内容に加筆・修正したものです。

はじめに

東北大学附属図書館での貴重資料電子化の試みは、1997年12月5日に図書館のホームページ上に開設した貴重書展示室（東北大学附属図書館所蔵）用のデータ作成に始まります。

1999年4月1日付で、情報管理課の和漢書目録情報掛と洋書目録情報掛を図書情報掛に統合し、電子情報掛を新設して、組織的にも本格的な電子化の体制を整えました。2002年4月からは、電子情報掛を情報企画掛（総務課）に発展的に改組し、さらなる充実を目指しています。

「狩野文庫画像データベース」は、2000年2月24日にカラー約200点、3,500画像を公開し、2001年6月16日には、モノクロ約80点、5,700画像を追加しております。

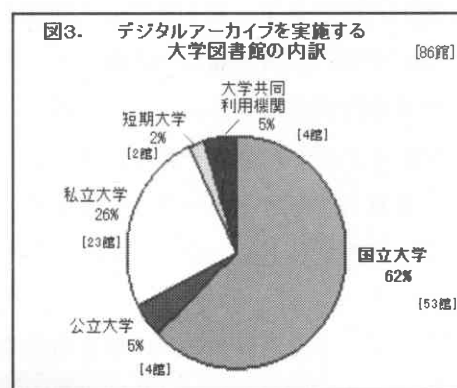
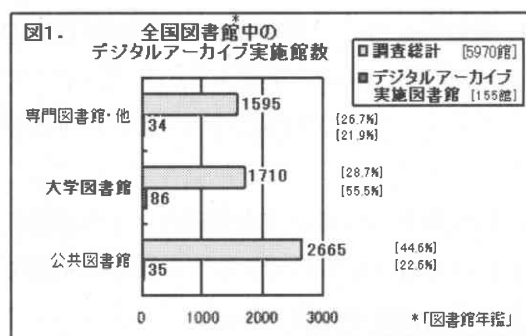
また、2000年4月17日には「夏目漱石」自筆資料画像データベース（約700点、3,500画像）を公開しております。

「狩野文庫画像データベース」には、公開から2002年7月末までの2年半で、約179万件、1日平均約2.3千件のアクセスがあり、研究者のみならず、広く一般市民の皆様にもご利用いただいているようです。

国立大学の図書館が関わる電子化資料については、琉球大学附属図書館「電子化資料を提供しているサーバー」（<http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/erwg/denshika.html>）にアクセスしていただければ概要をご覧いただけます。

図書館の電子化の状況につきましては、図1の資料によれば、主に大学図書館を中心に行われており、その中でも国立大学図書館の占める割合が高くなっております。

近年の国の財政事情や、2004年4月に予定されている大学法人化もあり、貴重資料の電子化についても、どこまで実現できるかわかりませんが、今後とも研究者や社会の要請に応えていけるよう努力していきたいと考えております。



※「メールアンケート調査票」集計結果 慶應義塾大学環境情報学部（法川雅俊研究室）

図1 デジタルアーカイブ（大学図書館）の状況

1. 大学の使命

ところで、「情報化社会」から「情報社会」へ、お化けがとれたと言われて久しくなりますが、なかなか実感できないのが現実です。

図2に示すように、インターネットをはじめとするネットワーク技術の普及や関連の法整備等により、情報社会のインフラである技術・制度基盤は整ってきましたが、真の情報社会ともいべき「知識情報社会」となるには、その社

会的生産基盤としての「学術情報基盤」を担うべき大学のさらなる充実・発展が必要不可欠ではないかと考えています。



図2 知識情報社会

これからの大学の使命 (mission) は、「知」の世界のインフラとなる公共財としての学術情報資源を社会に供給し続けることにあると思います。

一方では、大学を含む国の機関の事業に対する国民のチェックもきつくなっております。



図3 社会的責任

事業にあたっては、目標を達成するために、計画 (plan) → 実行 (do) → 評価 (see) というサイクルを繰り返すわけですが、目標すなわち結果にたいしては、結果説明責任 (Accountability) がありますし、事業計画には透明性 (Transparency) が求められるでしょう。

さらに、計画の実行には、情報開示 (Disclosure) という問題も避けてはとおれません。

何をやるにしても、大学も常に社会に対し責

任を負っているのだという強い自覚が必要な時代なのかもしれません。

大学の存立自体にも国民から厳しいご意見をいただく時代ですので、事業のすべての場面で十分な点検・評価が必要になります。

2. 貴重資料電子化の概要

2.1 経緯

図書館にとっての永遠の課題、貴重資料の保存と利用という相反する要求に応えるために、ホームページに貴重書展示室 (1997年12月) を設け、常設展 (1998年8月～) や企画展 (1998年11月～: 年1回) を開催して、貴重資料を広く公開する努力を続けております。

これは、地域住民への公開、生涯学習支援、そして一層の社会貢献を目指す試みです。

また、これまで積み上げてきた諸先輩 (図書館員) の仕事の成果、貴重な資産 (財産) を活かすことにもなります。

さらに、「東北大学教育研究情報基盤データベース」の1つとして、全文 (書誌)・画像データベース、「狩野文庫画像データベース」(2000年2月) や「“夏目漱石” 自筆資料画像データベース」(2000年4月) を開発・公開して、ご好評を得ております。

2.2 画像システム (骨子)

この画像データベース作成にあたっては、つぎの点に留意しました。

- ①一般家庭から実用的スピードで十分アクセス可能であること
- ②インフラの整備、技術的進歩により、システムがすぐに陳腐化しないこと
- ③クリックするだけの基本的操作で、画像データベースを利用できること
- ④資料の特性を画像表示 (見せ方) に反映させること
 - ・和装 (線装) 本: サムネールの配置 (右→左)
 - ・絵巻、地図 (分割撮影): パレット表示、隠し画像 (回転)
 - ・自筆資料: 頁付けの自動化等 (PDF)

- ⑤サーバ、クライアント（利用者側パソコン）にできるだけ負担をかけないこと
- ⑥大量生産に馴染む方式を採用すること
[画像処理においては特に重要]
- ⑦システムの“考え方”が、他の大学図書館等で参考になるものを目指すこと

2.3 画像の特徴

- ①絵巻や合戦図、医学資料などの見たい場面が、クリック操作で簡単に見られます。

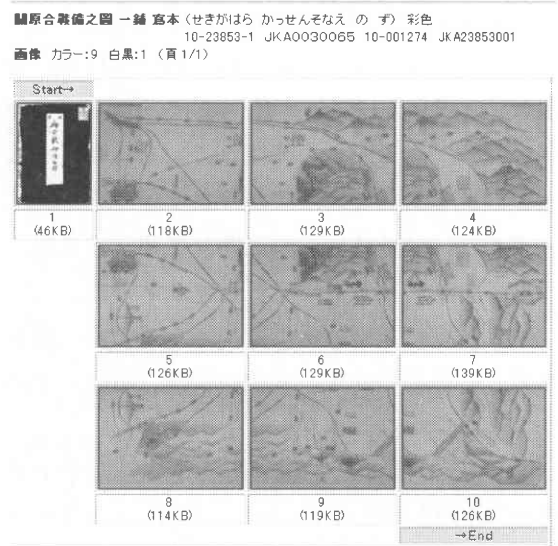


図4 關原合戦備之圖

<http://www.library.tohoku.ac.jp/kano/10-001274/10-0012741007.html>

サムネールの下には画像のサイズが入っており、一度詳細画像を見れば、その利用環境でのつぎからの詳細画像へのアクセスに要する時間が推測できるようにしてあります。

- ②画像合成、和歌の翻刻（試行版）

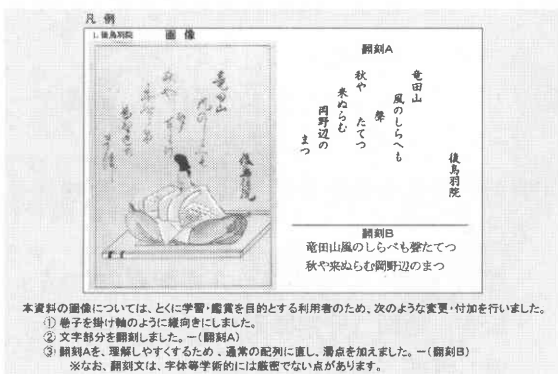


図5 新撰三十六歌仙

<http://www.library.tohoku.ac.jp/kano/05-00095607/05-00095607.html>（しんせんさんじゅうろっかせん）

絵巻を分割撮影（35 mm カラーズライドに）したため、歌人が分断されている部分があること、和歌が崩し字で“散らし書き”されているため、翻刻したうえで、さらに通常のヨミ順に整え、サムネールは対になる和歌を鑑賞できるように配置してあります。

- ③clickable map による拡大表示 →「絵図」



図6 坤輿萬國全圖&京大繪圖 etc.

- <http://www.library.tohoku.ac.jp/kano/ezu/kon/kon.html>（こんよばんこくぜんず）
- <http://www.library.tohoku.ac.jp/kano/ezu/kyo/kyo.html>（きょうおおえず）

図7に示す特殊なカメラで撮影した高精細画像から作成したこれらの絵図は、特別なプラグイン（プログラム）を使用しなくても、Webブラウザだけで、段階的に細部を拡大したり、拡大画像を回転することができ、古地図の新しい表現方法として高い評価をいただいております。



図7 高精細画像

特に画像の回転では、1つの画像に時計回りに90, 180, 270度回転させた3つの画像を隠し画像として用意しておき、各回転ボタンがクリックされた場合、そのボタンに対応した画像を表示させる方法で、サーバやクライアントに置いたプログラムによる画像回転方式に比べ、格段に早い画像表示を実現しています。サーバへの負担も少なく、比較的遅いネットワーク環境やスペックのあまり高くないクライアントからのアクセスにも対応可能としています。

④PDFの特徴

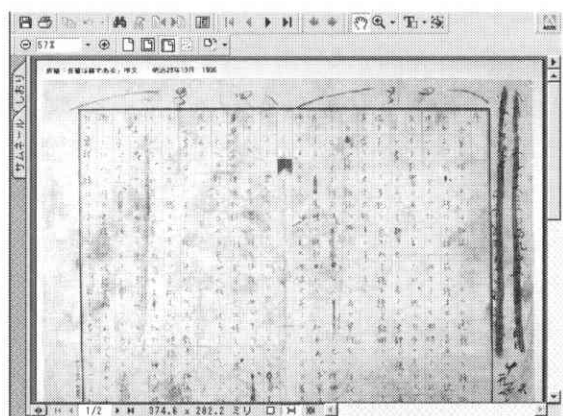


図8 原稿「吾輩は猫である」序文

<http://gassan.library.tohoku.ac.jp:8000/sosekijihitu.html#genko>

漱石文庫（“夏目漱石”自筆資料）の画像では、PDF形式のファイルフォーマットを採用し、自動頁付けの機能等を使って効率的にデータベースを作成し、印刷等の利用の便を図っています。

3. 図書館員の資質・能力

貴重資料を電子化する際に、図書館員に必要な資質、求められる能力とは何でしょうか。同じ図書館にかかわる方でも、書誌学から入られた方、おもにコンピュータを用いた業務を得意とする方、それぞれの得手不得手や経験、知識によってもいろいろなご意見があると思います。

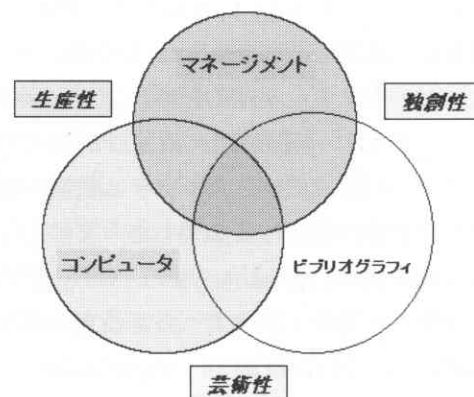


図9 資質・能力

図9に私が考える資質・能力を簡単に図示してみました。

まず、マネージメント [management] ということです。一般に管理・経営と言われておりますが、経営的センス、経済的合理性、先見性等々 “manager” としての技量を是非磨いて欲しいと思います。

つぎに、この時代ですので、コンピュータ [computer]（電子計算機）についても、特に専門的な知識は別にしても、情報リテラシー（サーバ、パソコン、インターネット、ブラウザ、セキュリティ、ネットケット、etc.）や画像（JPEG, GIF, PNG, PDF, HTML, etc.）に関する基礎知識を中心に、自分のものにして欲しいと思います。

これは図書館員にとっては言わずもがの話ですが、ビブリオグラフィ [bibliography]（書誌学）についても、もう一度ご自身の知識を整理されて、不安な点があれば、特に、古典籍に関する知識、史料の取扱、出版史、禁書・焚書、目録等を主に確認していただければと思います。

さて、見方を変えて、こういった基本的知識からのアプローチとは別に、業務に関連するセンスも磨く必要があるでしょう。

まず、芸術性 [artistry] です。史料の再現性、システムとしての表現の美しさ、画像表現の適切さ、基礎的技術にたった創意・工夫（見せ方）、新しい画像表示技術の導入等々、たく

さんあると思いますが、これも大切な要素です。

つぎに、独創性 [originality] ですが、ユニークな見方・考え方、学際的思考、オン・デマンド、アーカイブ（発展性）、横並び的思考の排除や利用者の視点に立ったシステム構築・管理・運営等を常に心がける必要もあります。

最後に生産性 [productivity] です。グローバルな視点・視野、企画力（外部資金の導入、他機関との連携）、折衝力（negotiation）、標準化、大量生産、等々、どちらかというと、図書館員にとっては苦手な部分ですが、これも事業を成功させるために大切な能力です。

人材の確保、効果的な研修といったお題目がたびたび話題となりますが、結局のところ、その図書館、組織のポリシー [policy] がしっかりできているかどうか、その辺のところには根本的な問題があるということになると思います。

ここでは、コンピテンシー [competency] という概念でまとめておきたいと思います。これは、能力・資格・適性の意味で、人事評価制度において、業績優秀者が保有している能力のことを言いますが、業績優秀者の行動パターンからその特性を抽出し、人事評価の具体的基準とすることです。

したがって、その組織における求める人材、あるいは、人材を育てる方向も示してくれます。

さきほどの図9ですと、3つの輪の交わるころ（論理積）に位置するということになるでしょうか。もちろん、一人の人間でなくても組織の総体として、このような人材がそろえられ、システムとして機能させられればよいわけです。

それにはまず、組織の管理者が、これらのことに思いを巡らしているのか、ということが重要になってまいります。“produce”という言葉は、ラテン語の“docere”（教える、導く）が語源ともいわれていますが、組織に真の“producer”が必要な時代になっているといえるでしょう。

4. クリックابلマップ・スタータキット

このお暑い中、昨日から研修を続けられておられる皆様へのお土産として、東北大学附属図書館が作成・公開しております、絵図のクリックابلマップをご自身でも作れるスタータキット [starters kit] を用意してまいりましたので、要点を説明させていただきます。

これは、現在図書館のホームページから公開しておりますものとほぼ同様のHTML（スクリプト）ですので、このキットと実例をみていただければ、いわゆる“借文”方式で、画像や書誌事項を入れ替えるだけで、必要なHTMLを作成し、公開することができます。

お手元の資料では、基礎編と上級編だけになっておりますが、その中間的な位置付けになります中級編も準備が間に合いましたので、持ってまいりました。

ご希望の方には、メールウェア（フリーソフト）としてお送りできますので、後でけっこうですのでメールアドレスをお知らせください。

もし、この仕組みをご活用いただいて、データベースやWebコンテンツを公開された場合は、URLを是非お知らせ下さい。相互にリンクをはらせていただければと思います。

メールでお送りするスタータキット（LHA圧縮ファイル：iwate_pu.lzh [194 KB]）をお手持ちの解凍ソフトを使ってパソコンのデスクトップに解凍すると「iwate_pu」というホルダの下に（13ホルダで）約150ファイル、計約620 KBができます。“menu.html”をダブル・クリックして操作してみてください。

図10の画面が表示されます。ここで■基礎編の画像をクリックしますと、つぎの図11の画面が表示されます。

4.1 基礎編

これは、“画像の特徴”で説明しました「關原合戦備之圖」等で使用しているもので、HTML（文書）の基礎、表を作成するためのテーブルタグ（とその仲間達）を使って作成す

クリックابلマップ・スタータキット

東北大学情報シナジーセンター（図書館分室）
学術情報支援部 日出 弘

このスタータキットは、東北大学附属図書館が作成し、WWWで公開中の「狩野文庫画像データベース」の地図（絵図）表示システムを紹介するものです。

書誌事項や画像をお手持ちのデータに置き換えることで簡単に「クリックابلマップ」を作成することができます。

■ 基礎編



このスクリプトでは、基本的なHTML構文だけで、クリックابلマップを作成しています。分割画像（サムネールを含む）を用意して、キットの画像と入れ換えてください。データベース名と書誌事項は適宜作成してください。リンク先も必要に応じて増減してください。

■ 中級編



上級編との違いは、画像の回転機能がないことです。画像数も少なくても構いませんので、取扱いも簡単です。画像の縦横比の制限も少なく、比較的簡単に作成することができます。

■ 上級編



スクリプトは複雑ですが、これも画像を差し替えれば、回転機能を含むクリックابلマップを作成することができます。画像を回転させますので、各画像はできるだけ正方形になるように作成（分割）します。頁表示や、メニューのスクリプトにはコメントがついていますので、画像サイズやコマ数を変更する際に参照してください。

※このスタータキットを使って画像データベース等を公開された場合は、東北大学附属図書館までご連絡いただければ幸いです。

Copyright (C) 1999 - 2002 Tohoku University Library. All Rights Reserved.

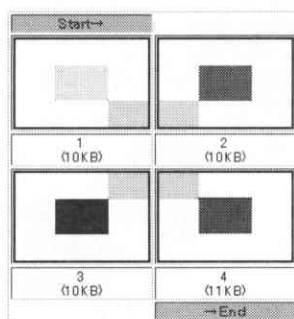
図10 クリックابلマップスタータキット

る方法で、画像の縦横のサイズも省略可能なので、少しでもHTMLを書いたり修正したことがある方には、比較的馴染みのある方法だと思います。

このキットでは、話を簡単にするために4枚の画像で構成してありますが、テーブルの文法をご理解いただければ、行・列方向への追加も簡単にできます。

狩野文庫画像データベース 画像一覧 Title List Title Index Menu

資料名・巻号・冊数等 (よみ) 彩色 著者名・出版事項・注記
配架番号 microfilm番号 一連番号 レコード番号
画像 カラー:4 白黒:0 (頁 1/1)



Title List Title Index Menu

Copyright (C) 1999 - 2002 Tohoku University Library. All Rights Reserved.

図11 ■基礎編（1）

1枚の絵図を複数のコマに分割撮影（スキャニング）した場合のサムネールや詳細画像は、多少重複部分があってもかまいません。

絵図の全体像を見せる図11の画像一覧（サム

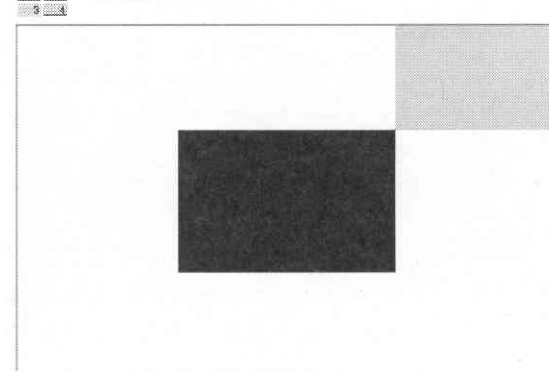
ネール）表示画面で、“3”の画像をクリックすると、つぎの詳細画像を表示します。

狩野文庫画像データベース 詳細画像表示

資料名・巻号・冊数等 (よみ) 彩色 著者名・出版事項・注記
配架番号 microfilm番号 一連番号 レコード番号
画像 カラー:4 白黒:0 (頁 1/1)

Title List Title Index Menu

1 2 3 4 Image List



Copyright (C) 1999 - 2002 Tohoku University Library. All Rights Reserved.

図12 ■基礎編（2）

図12の詳細画像表示頁では、左上部のボタンをクリックすることで、図11の画面にいちいち戻らなくても、自分の行きたい詳細画像にジャンプすることができるようになっています。

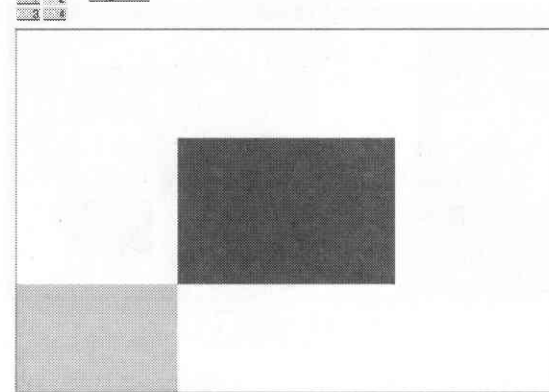
この画面で、“2”のボタンを押すと、つぎの図13の詳細画像をみることができます。

狩野文庫画像データベース 詳細画像表示

資料名・巻号・冊数等 (よみ) 彩色 著者名・出版事項・注記
配架番号 microfilm番号 一連番号 レコード番号
画像 カラー:4 白黒:0 (頁 1/1)

Title List Title Index Menu

1 2 3 4 Image List



Copyright (C) 1999 - 2002 Tohoku University Library. All Rights Reserved.

図13 ■基礎編（3）

HTML内容のこまかな説明をする時間もございませんので、ヒントとしてホルダ名、ファイル（HTML, JPEG）名と関連の記述部分を図14に示しておきましたので、参考にしてください。

ホルダ名	ファイル名	画像ファイル
10-001217	* 10-001217.html	10-001217s001.jpg (サムネール)
		10-001217s002.jpg (サムネール)
		10-001217s003.jpg (サムネール)
		10-001217s004.jpg (サムネール)
	* 10-001217001.html	10-001217001.jpg
	10-001217002.html	10-001217002.jpg
	10-001217003.html	10-001217003.jpg
	10-001217004.html	10-001217004.jpg

```

* <IMG SRC="10-001217s001.jpg"></A></TD>
<IMG SRC="10-001217s002.jpg"></A></TD>
<IMG SRC="10-001217s003.jpg"></A></TD>
<IMG SRC="10-001217s004.jpg"></A></TD>

* <TD bgcolor="#ffffff"> 1</TD>
<TD bgcolor="#ffffff"><A HREF="10-001217002.html#gazou"> 2</A></TD>
<TD bgcolor="#ffffff"><A HREF="10-001217003.html#gazou"> 3</A></TD>
<TD bgcolor="#ffffff"><A HREF="10-001217004.html#gazou"> 4</A></TD>

<IMG SRC="10-001217001.jpg" alt="画像：10-001217001.jpg" border="0">

```

図14 ■基礎編（4）

デジカメやスキャナで作ったオリジナルの画像があれば、簡単にサムネールを作ってくれるフリーウェアも沢山あります。入力機器付属のバンドルソフトと合わせて使いますと、特に高価な市販ソフトを購入しなくても、思いのままに Web コンテンツを作成することができます。

4.2 中級編

中級編では、フレーム機能を使って、ブラウザの画面を分割して、左側に全体画像を、右側に詳細画像を表示することができます。

この方式では、①単に分割指定するだけのファイル、②左側に設定するファイル、③右側に設定するファイルという3つのファイルが必要になります。

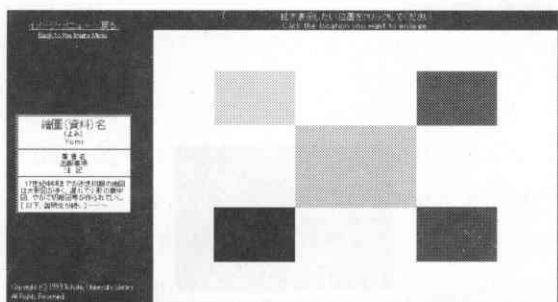


図15 ■中級編（1）

図15は、全体図を示しています。ここで、画像の拡大してみたい部分（左下部）をクリックしますと、図16の画面に切り替わります。

左フレームには、全体図（サムネール）と拡大画像表示部分を赤い枠で囲んで示しています。

ここで、左フレーム全体図の右上の画像をクリックしますと、図17のように右フレームにそ

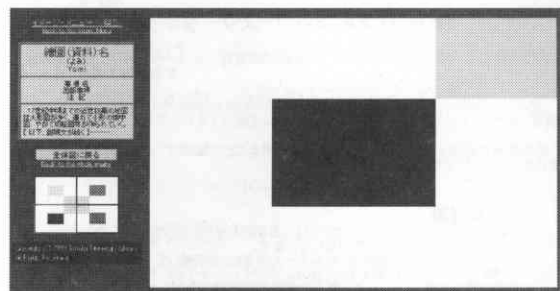


図16 ■中級編（2）

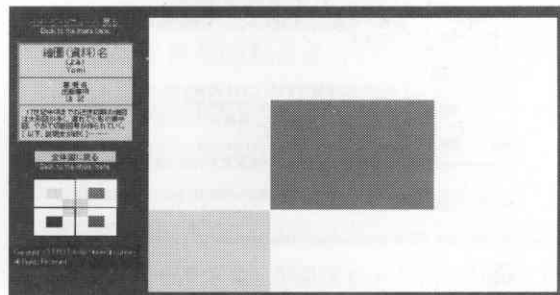


図17 ■中級編（3）

の部分の拡大画像を表示することができます。

図18にフォルダやファイルの関係がわかるように簡単な構成図を示しておきました。

このサンプルも説明を単純化するために、4つの画像で構成してあります。さきほどの基礎編用に作った画像で結構ですので、画像を入れ替えてもらえば、簡単に作成できると思います。

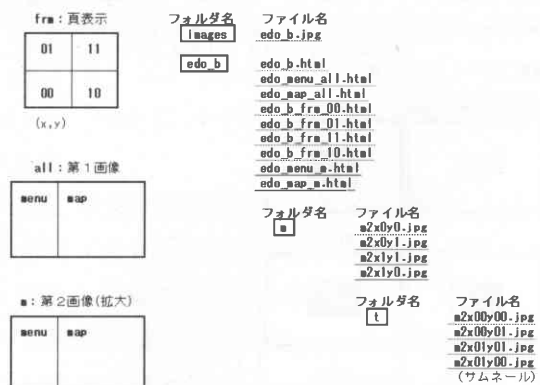


図18 ■中級編（4）

4) レタッチ [retouch] ソフトもフリーウェアでよいものがありますので、図15の全体図もサムネール画像の合成等で作ることができます。

一見複雑そうにも思えますが、実務上はHTML に書かれている注記を参考にして、画像サイズや画像数にあわせて数値を変更し、必

要なファイルを増やせばよいので、手数的には基礎編より楽にできるかもしれません。

4.3 上級編

最後は、上級編です。ここでは、単に画像を拡大するだけではなく、拡大画像を回転することができます。

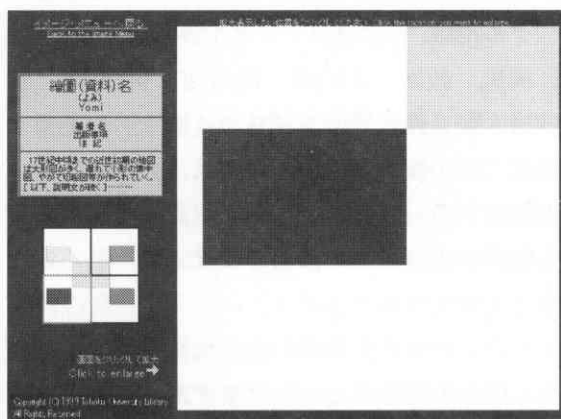


図19 ■上級編 (1)

図19の最初の画面では、左フレームの赤枠で囲まれた部分の詳細画像を表示しています。

ここで、右フレーム詳細画像の右上部をクリックしていただきますと、図20のようにその部分の拡大画像を表示することができます。

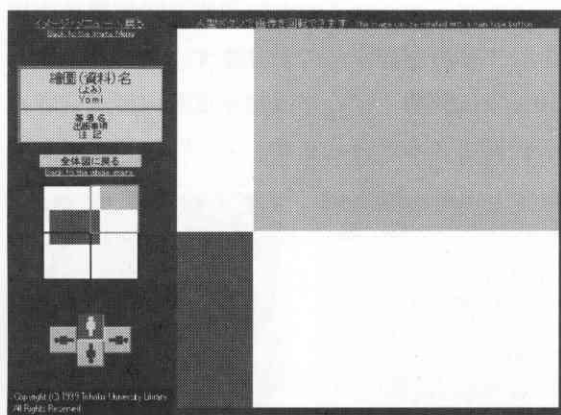


図20 ■上級編 (2)

左フレーム下部には人型ボタンが表示されています。画像が反転しているボタンが右フレームの拡大画像の現在の状態（正立 → 右90 → 右180 → 右270度回転）をあらわしています。

図21は“右180度回転” ボタンをクリックした倒立の状態を表示しています。

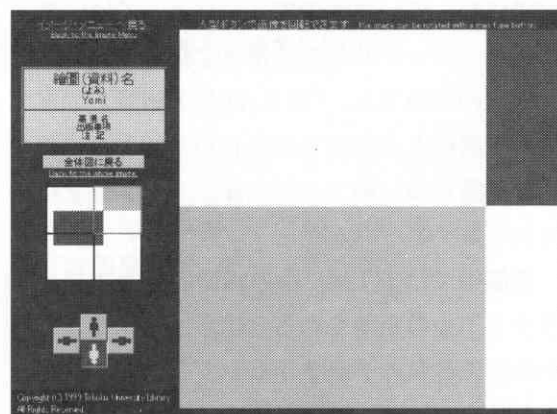


図21 ■上級編 (3)

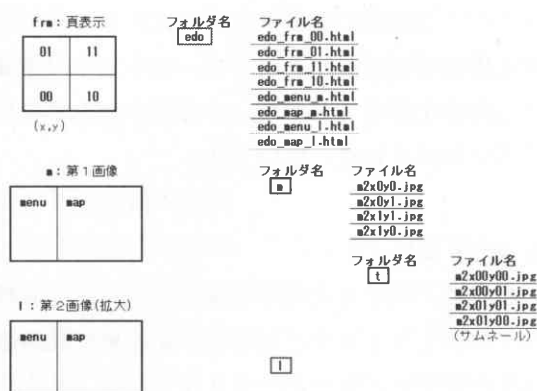


図22 ■上級編 (4)

図22, 23にフォルダやファイルの構成を簡単に示しました。さすがにこのレベルになりますとホルダも階層構造になりますし、画像も隠し画像である各回転画像を持ちますので、相当に複雑になります。ただ、HTMLの一部はフラグをたてることにより、各段階で共通に使える

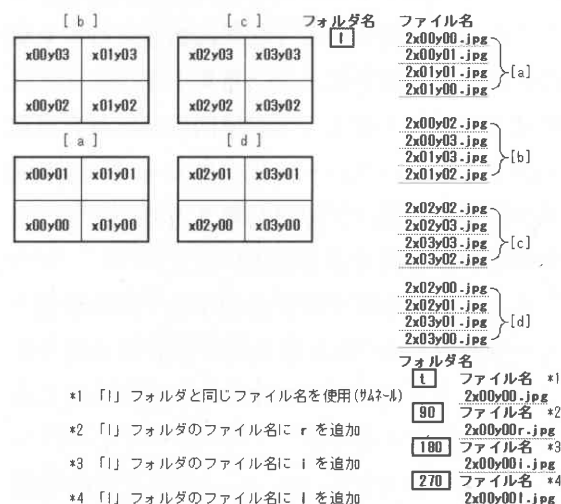


図23 ■上級編 (5)

構成になっていますので、全体としては、構造化されたスッキリした仕組みになっています。

絵図のなかでも、「繪入 江戸大繪圖」などでは、中級編と上級編を組み合わせており、画像の分割数も多いので、膨大なファイル数となっております。

基礎編ではHTML中の画像の置き方等にもう少し工夫の余地もあるとは思いますが、いろいろな画像数のデータがサンプルとしてご覧いただけますので、敢えてそのままにしてあります。

ここでご紹介した各サンプルは、きわめて簡単な構成にしておりますので、お手元の対象資料の内容を勘案しながら、一番あったものを使っただけいただければと思います。

おわりに

最後に、現在東北大学で進めております各種のプロジェクト等をご紹介します、あわせて高精細画像のデモをご覧くださいます。

まず、「狩野文庫画像データベース 古地図編 公開事業」です。平成14年度東北大学教育研究協力基金の交付をいただきまして、2ヶ年計画の第1年次分として、彩色地図465点4,600画像余りを今秋には公開（最終的には、約900点、7,600画像に）する予定です。

図書館が直接行うプロジェクトではありませんが、平成14年度東北大学研究基盤経費により学内の教官が実施する「附属図書館貴重書充実のための夏目漱石家文書の蒐集とその研究及び展示公開」や「東北大学附属図書館所蔵貴重書・古文書のデータベース化」によって、漱石関係や秋田家文書、マルクス書き入れ図書等の貴重な資料が公開できると思います。

また、医学分館では、所蔵する「解体新書」等の貴重資料をWebに公開する貴重書電子化プロジェクトが進行中ですので、近々お目にかかれると存じます。

さらに、他大学のプロジェクト（COE 象形文化研究拠点）ですが、図書館が所蔵する「狩

野文庫 江戸絵図 16点」を高精細画像化（2002年7月）する事業も進んでおります。

国立大学は大学法人化を控えておりますので、図書館も高精細画像による出版事業等の収益事業の研究を進めています。

例えば、①高精細画像（加工データ）やオリジナル画像をCD-ROM、DVD-ROMにするデジタル出版、②古地図デジタル復刻版シリーズ、③屏風、絵図（大絵図、懷中図、切絵図）、絵巻物、奈良絵本等のレプリカ〔原寸〕や美術調度品〔縮小版〕作成、さらには、絵葉書、栞、携帯ストラップ等の④来館者用記念品等々、「捕らぬ狸の皮算用」ではありませんが、いろんなことを考えております。

ただ、これらの事業のためには、原本の修復をしなければならないわけですが、貴重な原料そのものの修復となりますといろいろ大変ですので、さきほど講演の前におみせした「坤輿萬國全圖」のように、高精細画像を作成して、デジタル修復を行うという試みをいたしております。

さらに、この地図は史料的価値も高いので、青雁皮を原材料とする漂白鳥の子紙（和紙）に耐光性アーカイヴインキで印刷し、屏風仕立てのレプリカを作成しております。この屏風は、10月末に開催予定の平成14年度企画展で皆様にご披露できると存じます。

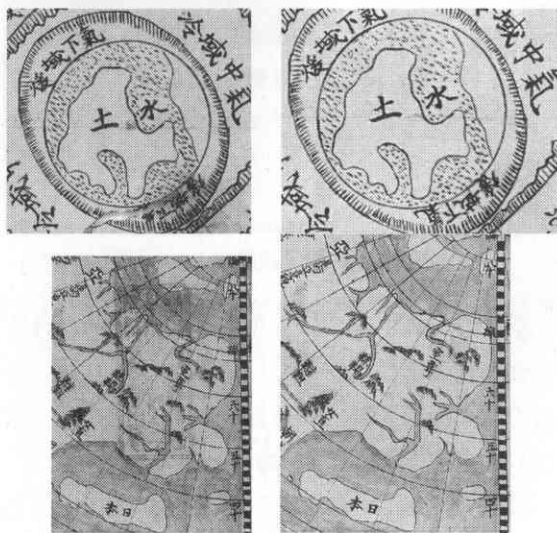


図24 修復例

デジタル修復の例ですが、図24の上部では虫食い部分を修復し、下部では裏面に押した蔵書印を消しています。このほか、原資料に貼付されている付箋の除去等、あわせて40ヶ所余りの修復を施してあります。

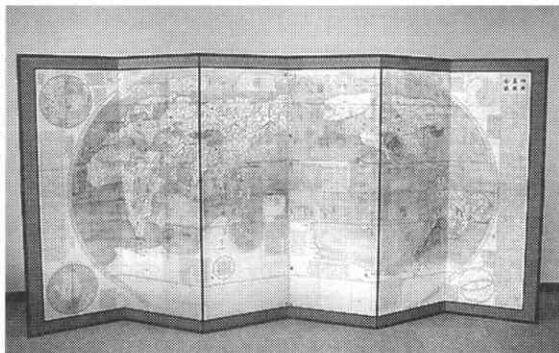


図25 「坤輿萬國全圖」屏風

図25は完成したレプリカ（屏風）のスナップです。約縦1.8m、横約3.8mにもなる大きなものでございます。

つぎは、まだ、個人的な構想（希望）というレベルですが、オリジナルが世界に数点しかない「坤輿萬國全圖」を活かした企画展（講演会）等を仙台プロジェクト（仮称）として、皆様にご紹介できればと考えております。

この世界図（原本）は、現存する初版本が、世界に4～5点しか確認されていないという稀覯本であります。宮城県立図書館にその1点が、また、⁷⁾仙台市博物館には、屏風仕立ての美麗本（彩色写本）が蒐集されており、所蔵機関は異なっていますが、これだけの資料がそろっているのは、世界広と言えども日本の仙台市だけでござ

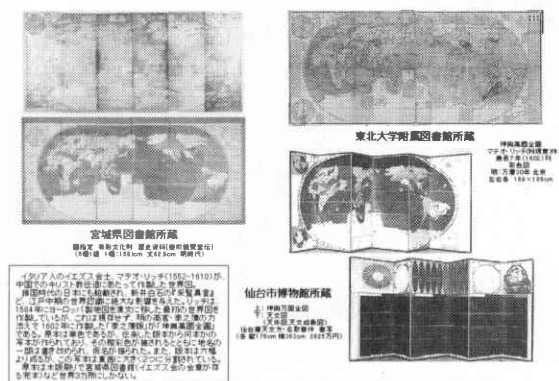


図26 仙台プロジェクト

いますので、まさに仙台プロジェクトというに相応しい企画になるのではないかと考えております。

関係機関のご理解とご協力を得て、この企画が実現するよう支援できればと思います。

さて、時間も残り少なくなりましたが、高精細画像と閲覧ソフト Gigaview による「坤輿萬國全圖」のデモを行わせていただきます。Gigaview は、絵図の専用ソフトではありませんが、高速で画像を拡大してみることができます。また、今、手にしております画像データと⁹⁾Gigaview を組み込んだ形の CD-ROM も製品化されておりますので、近い将来商品化されることになると思います。

ーデモンストレーション「記述省略」ー

今日は、東北大学附属図書館の貴重資料電子化の取組を簡単に紹介させていただきました。

今後とも、これらの取組を真摯に続けていきたいと考えておりますので、皆様のご支援をお願いいたします。

これで本日の講演を終わらせていただきます。ご静聴ありがとうございました。

（ひので・ひろし）

注

- 1) 吉富智子（慶應義塾大学総合政策学部01年度卒）氏 卒業論文「書物のデジタルアーカイブーその全貌」付録2 9. 図表集から引用。
- 2) 知的資産や知識の公開普及「東北大学のあり方に関する検討委員会報告」H. 11. 2. 16
- 3) 例：IrfanView 日本語版 Ver. 3.17 etc.
- 4) 例：JTrim ver. 1.20 etc.

フリーウェアのダウンロードには、Vector Software PACK (<http://www.vector.co.jp/index.html>)、窓の杜ソフトウェアライブラリ (http://www.forest.impress.co.jp/genre_index.html)、L-Interet Resource Center (<http://www2.lint.ne.jp/~lrc/>) などの各 Web サイトをご利用ください。

- 5) この古地図復元実験は、岡山市のコンテンツ（株）の協力で行ったものです。
- 6) “セビリア万博を飾る 狩野文庫収蔵「坤輿萬

「國全圖」彩色写本” 写真家 高橋由貴彦 東北大学
附属図書館報「木這子」17(2) p.16-19

(Web版は図書館内端末からのみの限定公開)
<http://www.library.tohoku.ac.jp/kiboko/17200/limit/17200116.html>

- 7) アメリカの地図収集家 Robert L.B.Tobin 氏旧蔵の写本で、左隻の「天文図屏風」と右隻の「坤輿万国全図」からなる6曲1双の資料です。天文図には、仙台藩天文方「名取春仲謹写之」の落款があり、仙台藩の学問水準の高さを証明する史料としての価値も含めて、仙台市博物館が購入したものだと思われます。

<http://www.city.sendai.jp/soumu/kouhou/press/00-07-11/exhibit-1.html>

- 8) 坤輿萬國全圖は、イタリア人のイエズス会士 Matteo Ricci (1552-1610) が、中国でのキリスト教伝道にあたって作製した世界図です。このと

ころマスコミを賑わせている「日本海・東海問題」でも、日本海が記されている古地図として、たびたび取り上げられているようです。イタリアといえば、宮城県とローマ県は支倉常長の慶長遣欧使節団が縁で姉妹県提携を結んでいますし、2002年 FIFA ワールドカップに出場したイタリア代表チーム(AZZURRI)が仙台を公認キャンプ地にしたのは記憶に新しいところです。1977年に設立された「仙台日伊協会」(会員約250人)は、イタリア語講座やコンサート、講演会などで幅広くイタリア文化を紹介しています。

- 9) (株)PFU 第一システム統括部のご協力で高精細画像ブラウジングソフト「Gigaview (ギガビュー)」と高精細画像「坤輿萬國全圖」を1枚のCD-ROMに焼きこんだサンプル板を作成しました。<http://www.pfu.fujitsu.com/gigaview/>



マテオ・リッチ「坤輿萬國全圖」のデジタル復元実験

総務課情報企画掛長 米 澤 誠

附属図書館では、コンテンツ株式会社(岡山)との協力により、デジタルデータから貴重な古地図の復元実験を行っています。今回復元したのは、本学狩野文庫に所蔵する世界図「坤輿萬國全圖(こんよばんこくぜんず)」の写本です。この世界図は、イエズス会宣教師マテオ・リッチが明で1602年に刊行した、縦約170 cm、横約360 cmの大きさのものです。原本は、世界に3点しか存在しない版本ですが(バチカン図書館、京都大学、宮城県図書館)、本学で所蔵する彩色写本は、写本の中でも一・二の優本で、その写真が平成4年のセビリア万博日本館の壁面を飾ったことで知られています(本誌vol.17, no.2「セビリア万博を飾る」参照)。

今回の実験ではまず、原本にある破損、汚れ等そのままの形で再現した印刷体を制作しました。印刷体は、フィリピン産青雁皮紙を原料と

した漂白鳥の子紙(和紙)ロール紙に、耐行性アーカイヴインキを使用した市販のインクジェットプリンタで2分割印刷し、それを貼り合せて原寸大・原資料通りに折り畳んだものとなっています。

さらに、最新のデジタル技術を駆使し、虫食い部分の補正や、蔵書印の裏写りの削除、付箋の削除、色補正などの修復を行った上で、観賞用として利用できる屏風仕立ての複製版を作製しました(本号「貴重資料の電子化について」参照)。

附属図書館としては、この実験により、貴重な学術資料の流布、複製版の提供による原本の保存等が可能になるものと期待しています。

なお、デジタル修復に関しては、本学情報シナジーセンター学術情報研究部の曽根原理助手に全面的に協力いただきました。



屏風を前にする小田忠雄図書館長(右)と坂上光明事務部長

狩野文庫画像データベース古地図編の公開

総務課情報企画掛長 米 澤

誠

附属図書館では、学内外の研究者、学生、地域住民の広範な利用を図るため、狩野文庫の和書のうち、錦絵・地図などの彩色資料の画像データベース化と Web による公開を進めています。平成12年度から公開している絵本・絵巻・合戦図等に加えて、平成14年10月から古地図450点を公開します。今回公開する古地図編は、次表の通り、日本全図及び蝦夷・樺太を含む江戸以北の日本の絵図と世界地図となります。URL: http://www.library.tohoku.ac.jp/kano/kano_top.html

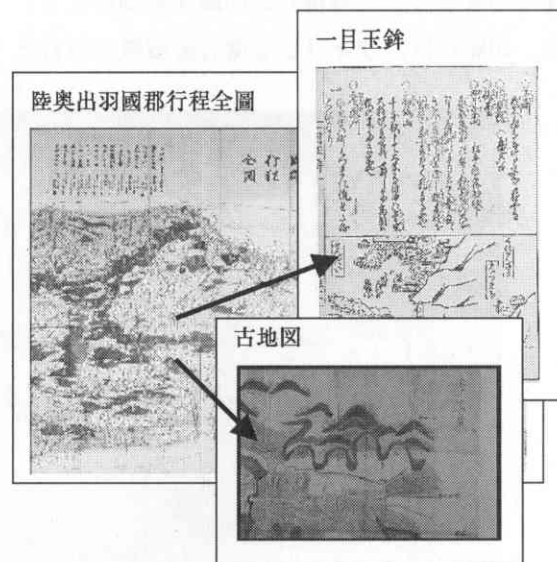
地 域	点 数	画像数
日本全図	50	1,170
江戸（東京）	124	1,191
東山道	96	920
北陸道	50	406
蝦夷・樺太	48	304
朝鮮	5	22
琉球	8	28
中国・東洋	20	185
西洋・世界	39	308
築城附城図	4	18
合計	444	4,552

狩野文庫で所蔵する古地図・城絵図は約1,600点におよび、日本国内有数のコレクションとなっています。このコレクションは、狩野文庫自体があらゆる分野から蒐集され古典の百科、江戸学の宝庫であると同様に、辺境も含めて日本全域にわたる古地図が万遍なく収集されているのが大きな特徴です。また、「江戸大絵図」「坤輿萬國全圖」等の貴重資料を数多く持つほかにも、「各年代・各国を網羅した江戸図・国絵図等の蒐集群が単独図以上に注目される」*といわれています。

さらに今回の古地図編公開にあわせて、東北街道筋クリッカブルマップを作製・公開しま

す。これは「道奥（みちのく）」、後の陸奥国の奥州街道と出羽国の羽州街道筋を中心に、関連する各地の古地図を参照できるようにしたものです。これには、井原西鶴の道中記「ゑ入 一目玉鈴（えいり ひとめたまほこ）」の奥州街道に関する記述もリンクし、絵図と文章で東北地方を楽しむことができるようにしました。

東北地方の全域図には、幕末に鳥瞰図の第一人者として活躍した浮世絵師、橋本玉蘭斎が慶應四年（1868年）に作製した彩色絵図「陸奥出羽國郡行程全図（むつでわこくぐんこうていぜんず）」を利用しました。北は函館から南は白川まで、国郡名、街道名、城郭、名所旧跡、神社仏閣、山岳峠、湊などを詳細に描いていることから、この地図自体も楽しめる絵図となっていますので、どうぞ御利用ください。



なお、古地図編のデータベース化及び Web での公開は、平成14年度東北大学教育研究協力基金の助成を受けて実施したものです。

*) 曾根原理, 古地図コレクション 東北大学附属図書館, 別冊歴史読本 江戸時代「古地図」総覧, 1997, p.418-419

米国大学図書館行政事情：平成14年度海外調査報告

情報サービス課専門員	松	井	好	次
総務課情報企画掛長	米	澤		誠
総務課情報企画掛	照	内	弘	通
医学分館整理掛	真	籠	元	子

1. はじめに

平成16年度の法人化を目前に控え、現在、日本の国立大学においては、教育・研究のさらなる高度化、個性豊かな大学づくり、大学運営のより一層の活性化を目的として、大学の組織・運営の見直しを行っているところである。この見直しは、大学組織の中の重要な一機関である図書館に対しても適用され、図書館の組織・運営について再検討が必要とされている。既に本図書館では、この検討の参考とすべく、平成14年2月から3月にかけて、国内の大規模私立大学13校の図書館を対象に、その管理・運営・サービス等について実態調査を行った。この度は、さらにその調査の対象範囲を広げ、世界的に最も先進的な北米の大規模大学図書館のいくつかについて、期間を平成14年7月頃とし、以下の4つの点について調査を実施することにした。

- (1) 運営組織について
- (2) 予算について
- (3) 人事について
- (4) 図書館活動の評価について

大学の選定にあたっては、訪問時に協力的な対応が期待できることから、本学と学術交流協定を結んでいる大学を優先的に選び、打診した結果、訪問希望期間で対応可能との回答を得ることができたのは、ワシントンとペンシルバニアの2つの州立大学であった。これに、本学とは学術交流協定は結んでいないが、別の設置形態という理由で、私立大学のコロンビア大学を加え、平成14年7月25日から8月2日までの9日間の日程で訪問調査を実施した。

訪問に先立ち、上記4点について20項目から

なる質問表を、あらかじめ電子メールで送ると共に、当該質問に対する本学レポートも用意して、情報収集が一方的なものにならないように配慮した。また、それぞれの大学及び大学図書館について、ホームページや各種資料を用いて、数回勉強会を行った。

2. 調査結果の概要

訪問調査の日程は、7月25日に日本を発ち、26日にワシントン大学図書館、29日にペンシルバニア州立大学図書館、31日にコロンビア大学図書館、8月2日に帰国というものであった。調査先大学と本学との比較統計表と3大学に共通する組織、予算、人事の特徴は以下の通りである。

2.1 比較統計表（次頁参照）

調査対象の3大学は、「北米研究図書館蔵書ランキング1999-2000」で、122図書館中、コロンビア大学が11位、ワシントン大学が12位、ペンシルバニア州立大学が13位に位置しており、同規模の図書館であるといえる。

2.2 組織

大学図書館は、教務担当副学長 Vice President の管轄の下に置かれることが多く、図書館長は学部長 Dean と同等の地位をもつ。日本のように教官が兼務するのではなく、公募によって採用された Librarian が務める。そして、学内には学部毎に数十の図書館があり、図書館長が全体を統括している。また、図書業務は図書館組織に集約されており、図書館以外に学部

調査3 大学と本学との比較統計表

	東北大学 ¹⁾	ワシントン大学 ²⁾	ペンシルバニア 州立大学 ²⁾	コロンビア大学 ²⁾
設 置 種 別	国 立	州 立	州 立	私 立
学 生	17,809	29,723	60,125	16,951
教 官	2,587	2,572	4,429	3,219
小 計	20,396	32,295	64,554	20,170
事 務 職 員	2,247	13,089	10,087	6,278
Librarian	— ³⁾	145	129	174
図書館職員	140	220	366	256
小 計	140	365	495	430
学生アルバイト		123	92	93
蔵 書 (千冊)	3,588	6,051	4,516	7,266
受入図書 (冊)	63,972	138,389	147,784	153,731
受入雑誌 (種)	20,523	56,431	40,248	48,567
資料費 (千円)	936,380	1,480,570 ⁴⁾	1,694,160 ⁴⁾	1,674,790 ⁴⁾
貸出数 (千冊)	208	2,486	900	780
文献複写 (件)	83,650	88,520	60,961	30,327

1) 東北大学の数値は、「日本の図書館. 2001」による。

2) 海外大学の数値は、ARL Statistics 1999-2000 (学生数, 図書館職員数, 蔵書 冊数等の図書館 関係の数値), The World of Learning. 2002 (教官数), Website(事務職員数) による。

3) 「2.4 人事」で述べるように米国での Librarian の地位・役割は日本と大きく異なる。

4) 1ドル130円として換算。

毎の図書業務を行う部署というものはなく、発注、受入、目録等のテクニカルサービス（整理業務）は、本館に集約されている。選書及びパブリックサービス（閲覧業務）は、各学部図書館がその機能を担っている。

2.3 予算

図書館予算の要求は、各図書館・各部署の要求をもとに、図書館幹部職員が立案し、館長が最終決定を下す。Provost（筆頭副学長）は、図書館側の要求をもとに図書館予算を決定する。しかし、多くの場合、新たな予算獲得が困難なため、図書館長は（また、大学全体としても）寄付金を集める活動に力を注いでいる。決定された予算の各図書館・各部署への配分は、

図書館独自の判断で行うことができる。全学で利用する電子的リソースの導入も、図書館配分予算の範囲内で、図書館が意思決定をしているが、教官が購入する資料については、図書館は関与せず、目録も作成しない。

2.4 人事

図書館職員は、次のように区分される。

- (1) 正図書館員 Librarian: 館長以下、図書系業務の責任者、業務担当者。
- (2) 事務系専任職員: 財政, 人事担当者
- (3) 図書館職員 Staff: 実務担当者。フルタイムであったり、パートタイムであったりする。
- (4) 学生アルバイト

正図書館員は、Library Science の学位

(MLS)を有することが求められている。また、教官と同様に Tenure の資格を得ることができる。正図書館員の採用については、館長を含め、全米およびカナダの図書館員から公募され、採用希望者の中から3名程度に絞られた候補者について、図書館で公開インタビューを実施する。また、会食等も行い、これらに関与した全員の意見を参考に上司が決定する（館長採用の場合は副学長が決定、副館長採用の場合は館長が決定）。通常、正図書館員の公募から採用には、数か月を要する。正図書館員以外のスタッフは、大学周辺の地域から公募される。また、貸出業務は、学生アルバイトが行っている場合が多く、それが学生にとっての情報リテラシー教育になっている。

2.5 その他

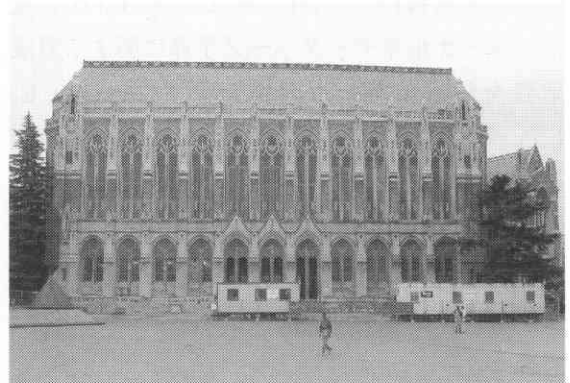
図書館活動の評価の手法は、今だ確立されていない。ARL が提唱している LibQUAL+ も、サービス評価の指標としては不足であるとの見解であった。

以上が、調査結果として3大学に共通する事項および特徴であるが、それぞれの大学での対応者、及び特徴等は以下の通りである。

3. ワシントン大学図書館 (University of Washington Libraries)

ワシントン大学は、カナダと国境を接するアメリカ西海岸最北部のワシントン州にある。1861年に創立した州立大学で、Seattle (シアトル)、Bothell (ボセル)、Tacoma (タコマ) の3つのキャンパスから成り、大学図書館は、大小23の専門図書館で構成されている。今回訪問したのは、Seattle にある Suzzallo Library および Allen Library (この2館は建物がジョイントされている) で、これが本館に当たる。Suzzallo Library は1927年に建築されたゴシック調の建物で、「図書館は大学の魂である」という理念のもとにキャンパスの中央に配置され

ている。都市地図上にも大学の目印としてイラストが描かれる美しい建物であるが、訪問したときには修復工事中であった。



ワシントン大学 Suzzallo Library

最初の調査大学ということで、若干不安を抱いていた訪問だったが、訪問早々に Lizabeth A. Wilson 館長が自ら紅茶を入れ、前日のイチロー (Seattle Mariners) の活躍ぶりを話題に出すなど、気さくな態度で対応して下さったおかげで、我々の緊張は一挙にほぐれ、この日の調査を楽な気持ちで、終始和やかに行うことができた。本当に感謝している。



ワシントン大学 Wilson 館長, Chamberlin 副館長と

説明は、あらかじめ送付しておいた質問表に基づき、我々が当該テーマの担当図書館員のオフィスを訪れ、質疑応答を行うという形式で行われた。午前中は、Science Libraries の Steve Hiller 氏による図書館活動評価についての説明から始まり、寄付担当部門の Carolyn H. Aamot さんによる館内ツアー（修復中の

Suzzallo Library ではヘルメット着用), East Asia Library の Keiko Yokota-Carter さんによる東アジア図書館の説明と続いた。午後は、収書・管理部門の Timothy D. Jewell 氏と電子ジャーナルやデータベース予算に関する質疑応答を行ったあと、副館長室で Charles E. Chamberlin 氏から図書館全体の予算や人事面についての説明を受け、最後に館長室で、図書館の運営・管理について、Wilson 館長、Chamberlin 副館長両氏との質疑応答を行った。ワシントン大学図書館の特徴は、以下の通りである。

3.1 組織

- ・館長の下には予算・人事を担当する副館長 (Duputy Director) 1 名及び、主要 3 部門 (研究・教育、収書・管理、図書館システム) の責任者にあたる Associate Director 3 名がおり、館長を補佐している。
- ・組織図により、命令系統がしっかり管理されている。
- ・図書館の政策決定は、館長、副館長と 2 つのキャンパス図書館長を含む 8 名の主要メンバーから成る Library Cabinet が行っている。

3.2 予算

- ・2001-02年度の図書館予算 (Seattle キャンパスのみ) は、州からの予算 (State Funds) が2,750万ドル (前年比2%減)、寄付金等の歳入が2,300万ドルの計5,050万ドル (65億6,500万円) である。
- ・図書館予算を決定するのは Provost (筆頭副学長) で、前年度認められた予算はそのまま継続で認められるシステムになっている。新規の予算項目は2年毎に別途要求することになっている。
- ・図書購入費に限らず、光熱費、旅費に至るまで全予算の収支決算は即座にレポートとして出力できる管理システムが構築されている。

3.3 人事

- ・館長の任命は、学術部門の長である Provost によって行われ、5年毎に評価される。

3.4 パブリック・サービス

- ・東アジア図書館があり、日本語資料も充実している。これは、ワシントン州がアジアに近いという立地条件から、歴史的に見てもアジアとの関係が深いこと、人種構成に占めるアジア・太平洋系の割合が5.6%と他州に比べ高いことによる。

3.5 その他

- ・ARL の LibQUAL+ (<http://www.arl.org/libqual/>) とは別に、独自のアンケート調査および評価 (UW Libraries Assessment) を3年ごとに実施し、改善を図っている (<http://www.lib.washington.edu/surveys/>)。
- ・雑誌も図書館員が選定する。予算の都合でデータベースは購入を中止しても電子ジャーナルはなかなか中止できない。特に電子ジャーナルのパッケージは中止できないとのこと。
- ・ホームページ “Information Gateway” (<http://www.lib.washington.edu/>) は、ユーザ・フレンドリをコンセプトとし、“Find It”, “Get It”などの日常語で項目を立てている。
- ・ILL の受付は完全にオンライン化しており、カウンターに訪れた場合でも用紙での受付は行わない徹底ぶりである。
- ・目録登録は、Music Score などの特殊資料を除き、Allen Library で集中的に行っている。
- ・職員研修の一環として学内のコンピュータ・トレーニングプログラム等を利用している。

4. ペンシルバニア州立大学図書館 (Pennsylvania State University Libraries)

平成14年7月29日、ペンシルバニア州 State



ペンシルバニア州立大学 Eaton 館長,
Kalin, Sulzer 両副館長と

Collegeにあるペンシルバニア州立大学図書館を訪れた。State Collegeは人口約8万人の大学町で、Seattleからは、直線距離にして約3,600 kmの距離があり、Seattle空港を朝8時15分に出発し、ワシントン・ダラス空港で乗換えて、State Collegeの空港に着いたのは、夕方6時25分であった。途中時差の3時間が加わったが、あらためて米国の広大さを実感することができた。ペンシルバニア州立大学図書館は、24のキャンパス、40の図書館で構成され、本館の機能を担っているのはState CollegeのUniversity ParkキャンパスにあるPaterno Libraryであり、ここに図書館長以下の管理部門および発注、受入、目録等のテクニカルサービス（整理業務）部門がおかれている。

当大学では、国際交流課の計らいで、吉川さんという、この春大学院を卒業し、就職の待機中であった日本人の方が通訳をしてくれることになり、その方の案内で9時に館長室を訪れた。館長室では、Nancy L. Eaton 館長、Sally W. Kalin, John H. Sulzerの両副館長が出迎えてくれた。挨拶、自己紹介そして今回の訪問の目的等を説明した後、調査に入った。あらかじめ送付しておいた質問表に対しては、既に英文での回答が添えられており、それをベースにこちらが質問し、館長と両名の副館長が回答するという方式で調査を行った。この調査は、午前中いっぱい行われ、午後からは、情報サービスの

責任者であるLaurie Probstさんに、図書館の中の、教育・行動科学部門、人文科学部門、生命科学部門、整理事務室、AV資料室等を案内してもらった。図書館の設備、蔵書内容、スタッフの数等、さすがに充実しており、うらやましいかぎりであった。館内案内の後、ボランティアの学生によるキャンパス案内を経て、16時、このたびの訪問に当たっていろいろお世話になった国際交流課のPam Gutemanさんにお礼の挨拶をして辞去した。

ペンシルバニア州立大学図書館の特徴的なことは以下の通りである。

4.1 組織

- 館長の下に、University Parkキャンパスを担当する副館長と、それ以外のキャンパスを担当する副館長が2名おり、館長の職務を補佐している。
- 図書館の政策決定は、図書館長、学術部門の長であるProvost、及びサポート部門の長である予算・事業担当の上級副学長（Senior Vice President for Finance and Business）が、Dean's Library Council(DLC)およびFaculty Senate Library Committeeに相談の上決定する。DLCのメンバーは学部長もしくは副学部長で構成され、図書館長が議長になる。Faculty Senate Library Committeeのメンバーは、学部評議会から任命された、大学の様々な部門の代表者で構成される。
- Law LibraryとMedical Libraryだけは、もとの設置母体が異なり、大学とは別組織であったことから、組織的には独立している。予算も別であるが、運営には関与している。Medical Libraryは、2002年からは目録業務は統合している。Law Libraryも統合の動きがある。

4.2 予算

- 2001-02年度の大学全体の予算は22億9,000万ドル（2,977億円）で、そのうち州からの補

助は3億4,000ドルで、全体の14.8%であった。

- 2001-02年度の図書館予算は3,600万ドル（46億8,400万円）で、内200万ドルは寄付金である。このほか授業料とは別に、Information Technology Feeとして学生1人1学期につき70-75ドルを徴収し、それが図書館に配分されている。これは図書館長が学長に提案し、4年前から実現しているもので年間総額200万ドルになる。これらの財源をもとに電子ジャーナル等を購入している。
- 州からの予算配分は増えないので、寄付金を集める仕事を強化している。その目的で大学本部に専任4名のスタッフからなる Central Development Office が設置されており、大学全体として組織的に献金者探しをしている。
- 図書館では、図書館のニーズにあった献金者を担当し、図書館への寄付金を獲得するよう努めている。キャンパスへの愛着心を強めることで、卒業生からの寄付金増加を期待し、在学中は同一キャンパスとなるように制度を変えた。
- また、Andrew W. Mellon 財団から補助金を受けて、電子絵画のプロジェクトを作っている（同財団は、JSTOR 計画にも補助金を出している）。
- 各図書館、部署のコストセンターから予算要求を受け、それをもとに館長以下の幹部で図書館の予算配分を決めている。

4.3 人事

- 館長をはじめとする職員の採用方法等はほかの大学と共通。館長の任命は、学術部門の長である Provost、及びサポート部門の長である予算・事業担当の上級副学長（Senior Vice President for Finance and Business）によって行われ、5年毎に評価される。
- 館長の主たる仕事は財務で、寄付金集めや、予算配分である。ここ5年間の寄付金集めの目標は3,700万ドルであるが、既に過去4年間で3,400万ドルの寄付金を集めた。図書館

の実務は2名の副館長が行っている。

4.4 テクニカル・サービス

- 目録業務には OCLC を使っている。Librarian は OCLC を使って、高度な目録作成を行っている。Staff は、ローカル目録に専念している（これは、OCLC は有料であるため、OCLC を使わずにコピーカタログで済むものは、ローカルだけで処理するものと推測する）。
- テクニカル・サービスのオフィスは、各人ブース形式で仕切られていて、専門分野毎の担当となっている。

4.5 パブリック・サービス

- ペンシルバニア州立大学は州立の大学なので、一般住民にも開放している。
- 中央館は、分野毎・コレクション毎に閲覧室があり、それぞれ専門の職員がカウンターに配置されている。
- 教育関係のコレクションには、子供用の学習教材・人形、絵本なども含まれていた。
- 日本語資料については、関係学科が無いためか、あまり充実していない。

5. コロンビア大学図書館（Columbia University Libraries）

平成14年7月31日、このたびの最後の訪問校であるニューヨークのモーニングサイド・ハイツにあるコロンビア大学を訪れた。前の2つの大学が州立であるのに対し、この大学は私立で Ivy League に属し、創立も1754年と米国の中でも古い大学の一つである。コロンビア大学図書館は、21の図書館からなっており、本館の機能を果たしているのは Butler Library である。

当大学と東北大学は、学術交流協定を結んでいないこともあって、連絡に手間取り、C.V.Starr East Asian Library とは訪問のアポイントメントが比較的容易に取ることができたが、本館の館長とのアポイントメントはなか

なかとれず、面会可能の連絡が来たのは出発の直前であった。31日の午後1時に、まず C.V.Starr East Asian Library を訪問し、館長の Amy Vladeck Heinrich さんと日本研究担当の Mihoko Miki さんから図書館の説明を受けた後、Miki さんに館内を案内してもらった。館長の Heinrich さんは、専門が日本文学で、斎藤茂吉の研究者であり、日本語に堪能で、また山形に何度か来たことがあるという日本に詳しい方であった。



C.V.Starr East Asian Library
Heinrich 館長, Miki さんと

午後2時が本館の副学長兼図書館長の James G. Neal 氏と面会の時間となっていたので、Heinrich さんの案内で Butler Library を訪れた。Neal 氏は前の訪問校であったペンシルバニア州立大学の図書館長を務めた後、当大学に移って来たという経歴を持ち、非常にきさくな方であった。調査はあらかじめ送っていた質問表に沿って、Heinrich さんの通訳を介しながら、説明を受けるという方式で行われた。3時から、企画運営担当の副学長補佐 Kristine N. Kavanaugh さんから、さらに補足説明を受けたのち、Heinrich さんの案内で Butler Library を見学した。午後4時過ぎ、コロンビア大学を辞去したが、C.V.Starr East Asian Library の館長自らに、日本語の通訳をしてもらい、かつ、館内案内の労までとってくれたことに対し、いたく感激した。



コロンビア大学 Neal 館長と

以上の説明や質疑応答で気付いたコロンビア大学図書館の特徴は以下の通りである。

5.1 組織

- 前の2つの大学の図書館長が専任であったのに対し、コロンビア大学では、図書館長が、Information Service の副学長を兼ねている。
- 館長の下には、副学長補佐2名と副館長2名がいる。
- 図書館の政策決定は、図書館長、副館長等17名からなる Management Committee と呼ばれる Policy Group が行う。

5.2 予算

- 大学全体の予算管理は、Budget Office が行っている。
- 2001-02年度の図書館運営費は3,570万ドル(47億4,100万円)で、この10年間、毎年3%増加している。同様に図書館資料費は、毎年8%増加している。このため、電子的リソースの導入については、苦慮していない。電子的リソースの全資料費に対する割合は、14~15%程度である。

5.3 人事

- 館長をはじめとする職員の採用方法等はほかの大学と共通。館長は5年任期である。

5.4 テクニカル・サービスについて

- 図書館コレクションの整備は、Collection

Steering Committee が行っている。

- 電子ジャーナルの選定は、電子ジャーナル担当のレファレンス・ライブラリアンが行っている。
- CLIO (Columbia's Online Catalog) と呼ばれる OPAC には、1981 年以降受入の全資料が入力されている。また 1981 年以前の資料についても遡及入力を継続しており、収録レコード数は 360 万件、OPAC 入力率は約 94% に達している。未入力なのは貴重図書と特殊言語資料であるが、これらも 2 年以内にオンライン化する。
- 1981 年以前のカード目録は、Butler Library に残っている。
- C.V. Starr Asian Library は、約 70 万冊の中国、日本、韓国、チベット関係資料、4,000 タイトル以上の逐次刊行物を所蔵する、米国でも有数の東アジア図書館である。
- この図書館の OPAC 登録率は 98% であり、最近では RLIN を利用して、オリジナルスクリプトによる目録作成を開始している。

5.5 パブリック・サービスについて

- プリンストン大学 (Princeton University) 及びニューヨーク公共図書館 (New York Public Library) と共同で、ニュージャージー州に保存図書館を持っている。

6. おわりに

すでに、この海外調査も 4 年目を迎え、先達の助言や失敗談をもとに、あらかじめ質問表を送る等できるだけの準備を行ったつもりであったが、やはり不十分な点が多々あった。その最たるものの一つは、やはり英語の能力であったが、応対してくれる方々の心配りのおかげで、この海外調査もなんとか最後までやり遂げることができ、応対して下さった方々にこの場を借りてお礼を申し上げる次第である。とりわけ米国のこの 3 つの大学に行き感じたことは、いずれの館長も、相手を緊張させないきさくな態度

での対応であり、館員同士のフレンドリーな関係であった。また、女性が要所を占めているのも新鮮な感じを受けた (ワシントン大学の館長とペンシルバニア州立大学の館長および 2 名の副館長の内の 1 人は女性であったし、コロンビア大学の Butler Library の副学長補佐や C.V. Starr East Asian Library の館長も女性であった)。しかし、なにより強く感じたことは、大学における図書館の占める地位が、予算面でも役割の面でも、日本と米国ではあまりに違うことである。日本でも図書館は大学の中心であるとよく言われ、建物は中心に建設されることが多いが、その後の設備費や資料費の予算的措置が十分であると言えないのが普通である。日本においてはまだ私立大学の方が、授業料の還元ということもあり、図書館に力を入れているケースが多い。コロンビア大学の James N. Neal 館長の「統計や調査も図書館にとって大事なことであるが、より大事なのは、良い図書館員と自由に働ける組織、そして変革する能力を持った責任者、ひいては図書館が大学にとって基盤となっていることである」という言葉が、現在の米国大学図書館の現状を表しており、われわれが法人化に向けて、今後の図書館のあり方を大学全体に提言してしていく際の一つの指針になると強く感じた次第である。

最後に、多忙な時期にわれわれ 4 人に対し、このような海外調査の機会を与えてくださった小田館長をはじめ、館員の皆様と、このたびの出張に当たり、相手大学との日程の連絡調整に尽力いただいた国際交流課の皆様に対し、心より感謝を申し上げて、報告を終わりとしたい。

(まつい よしつぐ、よねざわ まこと、
てるうち ひろみち、まごめ もとこ)

平成14年度目録システム地域講習会を開催

附属図書館では、平成14年7月10日から12日までの3日間、国立情報学研究所（NII）との共催で、目録システム（図書コース）地域講習会を開催しました。

目録システム講習会は、目録作成業務担当の図書館職員が、国立情報学研究所の目録システムの利用・運用に関する知識・技術を習得するための講習会です。

講習会は、「システム概論」、「端末操作解説」、「検索と目録登録の講義と実習」等のカリキュラムに沿って、国立情報学研究所の担当者研修を受講した図書館職員を中心とした講師（8名）

及び講師補助者（7名）により、これまでの業務上の経験並びに最新の情報に基き、講義・実習が行われました。

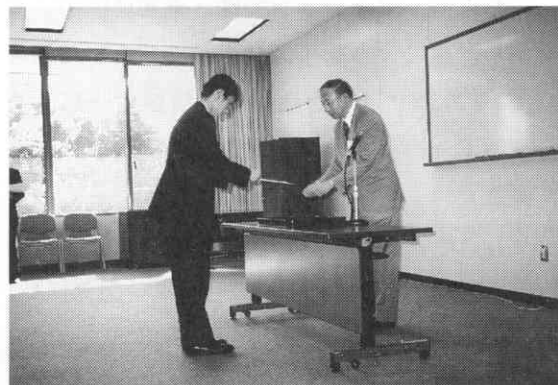
受講したのは、東北地区の大学附属図書館から推薦された18名と北海道地区からの1名の図書館職員で、総数で19名の参加がありました。

講習会では、パソコンの機種の違いや業務暦によって、戸惑う受講生もいましたが、講師等の熱心な指導と受講生の真摯な受講姿勢とが相俟って充実したものとなり、終了後、受講生からは感謝の意を述べた感想が寄せられました。

（総務課）



修了式



修了証を渡す三池情報管理課長

平成14年度東北地区大学図書館協議会合同研修会を開催

附属図書館では、平成14年7月18日に平成14年度東北地区大学図書館協議会合同研修会を開催しました。

今回の研修会は「図書館におけるインターネットを通じた情報サービス」を総合テーマとして、まずはじめに、逸村裕名古屋大学附属図書館研究開発室助教授（文部科学省学術調査官）から、大学を取り巻く学術情報環境の変化、世界各国のインターネット事情、これからの図書館サービス、デジタルレファレンスサービスなど、広範で示唆に富んだ内容の基調講演がありました。

これに続くセッションでは、東北地区の4大学から、次のような事例発表がありました。

（1）「外部サイトを活用した情報サービス」
高橋孝一（秋田大学附属図書館情報システム係長）

（2）「大学紀要等の電子化と提供」大須賀邦男（岩手県立大学メディアセンター図書係長）

（3）「利用者向け Web サービス（予約，購入希望，ILL）の運用」佐藤涼子（東北芸術工科大学図書館主任）

（4）「統合型学術情報提供システムによる新たな情報サービス」菅原透（東北大学附属図書館情報サービス課参考調査掛）

事例発表はそれぞれの図書館で実施している、特色のあるインターネットサービスについての報告となり、会場に集まった東北地区32大学、85名の参加者にとって、良い情報交換の機会となりました。

また、当日は参考展示として、①デジタル復元実験（「坤輿萬國全圖」原寸復元図及び高精細画像）、②東北大学統合型学術情報提供システム、③国立情報学研究所（NII）メタデータ構築システムの出展を行いました。

（総務課）



小田図書館長の挨拶



東北芸術工芸大学からの事例発表

東北大学学術情報発信セミナーを開催

附属図書館では、学内における学術情報発信活動を活性化するため、平成14年9月26日に学術情報発信セミナーを開催しました。

今回のセミナーは次のような2部構成とし、第1部では、学術情報発信について、図書館がポータル的役割を担うことが期待されている状況についての共通認識をもつことを目的とした講演、第2部では、情報発信に関する最新の技術動向について、関係職員の知識を深め、計画の実現及び今後の企画のためのスキルアップを図るための講義としました。

第1部「大学図書館と学術情報発信」

(1)「学術情報発信に関する最近の動向」

坂上光明（附属図書館事務部長）

(2)「東北大学附属図書館の情報発信計画」

米澤誠（附属図書館総務課情報企画掛長）

第2部「電子図書館システムとメタデータ」

(3)「Z39.50 とメタデータの現状と今後」

鳥越直寿（インフォコム株式会社）

(4)「メタデータを用いた統合検索システム」

福田隆浩（インフォコム株式会社）

(5)「国立情報学研究所（NII）及び東北大学のメタデータ収集計画」

米澤誠（附属図書館総務課情報企画掛長）

今回は初めての企画ながら、セミナーには東北地区の大学、高专等から28名、学内から44名、合計72名もの参加がありました。インターネット等の普及により学術情報の流通形態が大きく変革している現在、大学に対しては学術情報の収集基盤と世界への発信力を強化することが求められています。このような状況の中、教職員が大学からの学術情報発信にどのように関わって行くかが、大きな課題となっています。このようなセミナーを通じて関係職員が共通認識をもち、さらに情報発信に関する技術動向についての知識を深めるための企画を続けていく予定です。

（総務課）



坂上事務部長の講演



セミナー会場

東北大学附属図書館 平成14年度企画展

附属図書館では本年も下記のとおり企画展を開催し、所蔵する貴重資料の一端をご覧ください。

本年は「江戸の終焉－黒船・開国－」というテーマのもとに、江戸時代末期、幕府の衰退と倒幕運動、黒船来航と開国に揺れる日本を、多数の貴重資料に基づき紹介いたします。また本年は、平成11年度よりはじまる江戸時代をテーマとする一連の展示の完結編にもあたります。

また、東北大学東北アジア研究センター吉田忠教授による記念講演会も併せて開催するほか、「文学部創立80周年記念」関連資料、「坤輿萬國全図」デジタル復元屏風、狩野文庫古地図画像データベース等を特別展示いたします。どうぞ多数ご来場ください。

1. 資料展示会

1) テーマ：「江戸の終焉－黒船・開国－」

2) 内 容：

- ・近世から近代へ
- ・国防・技術
- ・幕末の錦絵

3) 開催期間：10月29日（火）～11月7日（木）10：00～17：00（10月29日（火）は14：00から、土曜・日曜・祝日も開催）

4) 会 場：東北大学附属図書館大視聴覚室（仙台市青葉区川内）※入場無料

2. 記念講演会

1) 講 師：東北大学東北アジア研究センター 吉田 忠 教授

2) 演 題：幕末における西洋砲術の導入

3) 日 時：10月29日（火）15：00～16：30

4) 会 場：東北大学附属図書館本館2号館4階会議室

3. 問合せ・交通

1) 問合せ先：東北大学附属図書館総務課庶務掛 TEL: 022-217-5911

<http://www.library.tohoku.ac.jp>

2) 交 通：市営バス宮教大、青葉台行扇坂下車 徒歩3分

駐車場がありませんので、自家用車でのご来場はご遠慮ください。

会 議

◎学 内

平成14年7月4日(木) 平成14年度第1回商
議会

○協議事項

- (1) 附属図書館学術情報整備検討委員会の設置について
- (2) 附属図書館中期目標・中期計画〔実施要綱〕の中間まとめ(案)について
- (3) 附属図書館の組織業務等(試案)について
- (4) 重複雑誌の不用決定について

○報告事項

- (1) 外部評価委員会の開催について
- (2) 平成13年度学術情報の整備状況等について
- (3) 平成14年度共通経費及び第二共通経費について
- (4) 平成14年度図書館資料費の配分について
- (5) 法人化に向けての資産移管に関する当面の措置について
- (6) 図書資料「大型コレクション」の本省申請について
- (7) 奨学寄付金の受け入れ及び平成14年度海外研修について
- (8) セクシュアル・ハラスメント防止委員会委員の交代について
- (9) 各分館からの報告について
- (10) その他
 - 1) 統合型学術情報提供システムについて
 - 2) 遡及入力計画について
 - 3) 日曜・祝日開館の試行について
 - 4) 平成14年度オリエンテーションの報告(中間)について
 - 5) 学部学生の書庫入庫について
 - 6) 平成14年度図書館企画展について
 - 7) 国立大学図書館協議会について
 - 8) 元大学院生への対応について

平成14年7月4日(木) 平成14年度第1回分
館長会議

○協議事項

- (1) 平成14年度図書館資料費の配分額(案)について
- (2) 平成14年度第1回附属図書館商議会の開催について

- 1) 附属図書館学術情報整備検討委員会の設置について
- 2) 附属図書館中期目標・中期計画〔実施要綱〕の中間まとめ(案)について
- 3) 附属図書館の組織業務等(試案)について
- 4) 重複雑誌の不用決定について

○報告事項

- (1) 外部評価委員会の開催について
- (2) 平成13年度学術情報の整備状況等について
- (3) 平成14年度共通経費及び第二共通経費について
- (4) 平成14年度図書館資料費の配分について
- (5) 法人化に向けての資産移管に関する当面の措置について
- (6) 図書資料「大型コレクション」の本省申請について
- (7) 奨学寄付金の受け入れ及び平成14年度海外研修について
- (8) セクシュアル・ハラスメント防止委員会委員の交代について
- (9) 各分館からの報告について
- (10) その他
 - 1) 統合型学術情報提供システムについて
 - 2) 遡及入力計画について
 - 3) 日曜・祝日開館の試行について
 - 4) 平成14年度オリエンテーションの報告(中間)について
 - 5) 学部学生の書庫入庫について
 - 6) 平成14年度図書館企画展について
 - 7) 国立大学図書館協議会について
 - 8) 元大学院生への対応について

平成14年7月10日～12日

東北大学附属図書館外部評価委員会

7月26日 平成14年度川内地区図書委員会(第1回)

7月30日 法人化事務検討委員会・図書部会(第4回)

7月31日 学術情報整備検討委員会(第1回)

◎学 外

第57回東北地区大学図書館協議会総会

第57回東北地区大学図書館協議会総会は、平成14年9月19日～20日の両日、秋田県立大学図書・情報センターを当番館として、加盟館から45館83名の参加を得て開催された。

総会における主な協議事項並びに各部会での協議事項は以下のとおりである。

1. 東北地区大学図書館間相互利用手続き申合せについて
2. 大学図書館における情報発信機能の改善について

3. 図書館における情報セキュリティ対策について
4. 収納スペース狭隘化に伴う除籍並びに出版物の廃棄について
5. 第58回総会当番地区（館）について
6. 平成14年度合同研修会について

次回総会は、東北福祉大学図書館を当番館として開催することになった。

（総務課）

人 事 異 動

平成14年9月30日現在

発令年月日	新 官 職	氏 名	旧 官 職	備 考
14. 6. 30		泉 ふじこ	文部科学事務官（多元物質科学研究所総務課研究協力掛図書室）	辞 職
14. 9. 1	医学分館整理掛長	松 元 義 正	情報管理課図書情報掛長	配置換
〃	情報管理課図書情報掛長	小 松 武 彦	医学分館整理掛長	〃

編 集 後 記

あんなに暑かった夏もいつのまにか過ぎ去り、街を歩けばどこからともなく金木犀の香りが漂ってきます。気が付けば今年度も折り返し地点までできました。

今号に海外出張について寄稿していただきました。今回の海外出張の目的は先進的なアメリカの大学図書館事情を調査するというのが課題でしたが、報告からもわかる通り、アメリカの大学図書館は予算や人事など想像以上に独立した組織のようです。また、かなりの数の学生ア

ルバイトを使うことにより結果的に学生の情報リテラシー教育になっていたり、こちらの図書館事情とはかなり違いがあるようです。法人化といわれてもなかなか具体的に想像できない、見えてこない部分もありましたが、今回の報告で皆さんの頭の中にも具体的なビジョンが現れたものもあるのではないのでしょうか。その皆さんの考えが、これからの図書館を変える第一歩になると思います。（M）

東北大学附属図書館報「木這子」 第27巻第2号（通巻99号）発行日 平成14年9月30日

発行人 坂上 光明 広報委員長 清水 二郎

発行所 東北大学附属図書館 〒980-8576 仙台市青葉区川内 電話 022-217-5911, FAX 022-217-5909

URL <http://www.library.tohoku.ac.jp/>